

吹田市社会福祉審議会

■令和7年度第2回 障がい者施策推進専門分科会

日 時:令和8年(2026年)3月27日(金曜日)午前10時~正午

場 所:吹田市立千里市民センター 大ホール

出席者:竹端委員、川田委員、佐中委員、西岡委員、槌矢委員、藤嶋委員、西村委員、富士野委員、楠委員、川本委員、利田委員、大江委員、野口委員、白川委員、大谷委員、小澤委員
以上16名

次 第:議題

1【報告】

手話言語等促進条例作業部会の取組みについて

2【質疑応答】

次期計画の策定に向けて

- ①計画策定到達点
- ②第4期障がい者計画の課題整理
- ③障がい福祉の取組に関するアンケート結果(速報)
- ④次期計画策定の方向性

手話言語等促進条例の取組みの進捗報告及び今後の取組み

3【グループワーク】

テーマ①:アンケート結果について

テーマ②:市が提示した次期計画のポイントについて

会議の経過

1【報告】

手話言語等促進条例作業部会の取組みについて

(手話言語等促進条例作業部会の部会長川田委員より報告)

2【質疑応答】

次期計画の策定に向けて

- ①計画策定到達点
- ②第4期障がい者計画の課題整理
- ③障がい福祉の取組に関するアンケート結果(速報)
- ④次期計画策定の方向性

手話言語等促進条例の取組みの進捗報告及び今後の取組み

以下、上記2案件に関する質疑応答。

【委員】

資料2の3ページ目の手話言語等促進条例の「第2 現状と課題」の「現状」の項目に、聴覚障がい者は「大きな声でゆっくり話してほしい」が最も多くとあるが、具体的には何%か。数値だけを見る

と点字や手話を必要としている人が少なく見えてしまう。

【会長】

質問の背景としては、点字や手話のニーズがもっとあるはず、矮小化されているのではないかと危惧を持たれているということによろしいか。

【委員】

はい。資料の中に視覚障がい者は点字を広めてほしい、聴覚障がい者は手話を広めてほしいという意見があるが、資料2の3ページ目の「現状」の数値からは、そう読み取れない。

【事務局】

具体的な数値はすぐに回答できないが、多い割合であった。「現状」の数値を記載した趣旨としては、2つある。1つ目は、吹田市には視覚障がい者又は聴覚障がい者の手帳所持者が約900人いる。高齢になってから聴覚障がい者になり、手帳を取得された方も含まれており、令和5年以前に、完全な無作為抽出でアンケートを実施した際には、もっと低い割合の回答であった。令和5年のアンケートからは、年齢区分が等分になるように、65歳以上、生産年齢人口、子どもに3等分して実施した。その結果、一定数のニーズがあることが分かったため数値として記載した。2つ目は、聴覚障がい者には手話を使えばよい、視覚障がい者には点字を使えばよいという先入観を持たれがちだが、ゆっくり話したり、大きな声で話すことでも支援になるということを伝えたかった。

【会長】

あるカテゴリーに属する人の全体的な意見と、真のニーズが必要な人とで認識のズレがある。これから普及啓発する段階で、認識のズレが無いような資料作りが必要になる。

3 【グループワーク】

今回の専門分科会では、テーマ①:アンケート結果について、テーマ②:市が提示した次期計画のポイントについてという2つのテーマでグループワークを実施しました。以下に各グループから出た意見についての発表を議事要旨として記載します。

【委員グループ2班】

①生活

- ・重度障がい者、強度行動障がいがある人の受け入れが不十分。
- ・今望まれる生活と将来望まれる生活は違う。
- ・今は自宅で暮らすことを望んでいても、親なき後の将来はグループホーム等での暮らしを望むかもしれない。
- ・現在の話と将来の話は切り離して考える必要がある。

②人材確保

- ・情報発信はしているが、人材確保になかなか繋がらない。
- ・専門職を確保するだけでなく、専門職以外にも広く人材を確保する必要がある。

③医療

- ・医療へのアクセスの問題。病院に行ってもきちんと対応してもらえない。

④障がい種別

- ・身体障がい者は、身体の状態が悪かったり、災害時に避難ができない。
- ・精神障がい者は、見た目では分からないためサポートを受けることが難しい。

⑤市の職員で3つの手話ができない人が3分の1も残っているのはなぜか。

【委員グループ4班】

- ・手話を覚えたいが、手話を勉強できる場所が少ないため増やしてほしい。
- ・手話を勉強するための受講費用が高い。
- ・病院に専任の手話通訳者を増やしてほしい。
- ・急な依頼や土日手話通訳を利用できないことがあるので、24時間利用できるような制度がほしい。
- ・手話ができるヘルパーの育成が必要。
- ・車いすでも移動しやすい道路の整備をしてほしい。
- ・車いすでも利用できる飲食店が少ないため増やしてほしい。
- ・一人暮らしを望む意見があるが、在宅生活を実現できるような制度があればよい。
- ・点字費用が高いので、もう少し安くできないか。
- ・点字を請け負ってくれるところが少ないので増やしてほしい。

【市職員グループ2班】

①相談支援体制はどういう役割分担が効果的か。

- ・日常的なもの、緊急的、高度なもの、身近なもの。
- ・生活困窮の場合は、「くらしサポートセンターすいた」、成年後見は、「けんりサポートすいた」、住宅の相談は、「すまいサポートすいた(検討中)」があるが、市民にとって分かりやすいネーミングになっているか。
- ・年齢等で分けると効果的か。

②事業所への指導監査の適切な体制。

- ・放課後デイサービスなどは、人材不足と言われる中でも事業所は増えている。
- ・どうすれば質の担保ができるか。どういう監査の体制があればよいか。
- ・どうすれば事業所で働く人のモチベーション向上に繋がるか。良いところを発信していく必要がある。

③一人暮らしをしたい人がいる一方で家族と一緒に暮らしたい人もいる。

- ・本人のニーズと家族のニーズがある中で、どういう支援があれば実現できるか。
- ・本人のニーズと家族のニーズが複合化する中で、どこまで深掘りできるか。

【市職員グループ1班】

- ・令和6年の児童福祉法の改正で、こども発達支援センターが中核となり、地域へ還元をしていくという役割を持っている。

- ・アンケート結果を見ると、児童発達支援に関して利用したいサービスに空きがない、利用したい日時に空きがなく、利用ができないという意見が出ている。
- ・事業所への巡回をして状況の確認をしているが、データベース化してどんな手立てが必要なのか、どこの事業所に空きがあるのかを把握してお伝えできているか。
- ・主に未就学の子の相談が多いが、18歳になってからのイメージを持ってもらえるような対応をしていかなければならない。
- ・こども発達支援センターだけでなく、障がい福祉室とも連携し、保護者にも安心していただき、子供の療育をどうしていくか話をする必要がある。

【委員グループ3班】

- ・アンケートについて、本人が回答された割合が高い。どのアンケートも回答率が50%以下ということから、障がいの軽い人が多く回答されたのではないかと推測する。
- ・アンケートの結果と実態がどこまであっているのか。
- ・人材確保の問題。人材が少なくなる一方で、色んなサービスはもっと増える必要がある。専門性も向上させなければならぬ。使い勝手もよくないといけない。緊急性も担保されないといけない。
- ・具体的にどんなプランで進めていくのか目標を定めなければならぬ。目標が達成できなかったということにならないように、具体案があった方がよい。
- ・障がいへの理解、周知啓発に関わることだが、障がいの種類によって必要な合理的配慮が違うということを知らない人がたくさんいる。どうやって周知啓発をしていくかという課題がある。
- ・点字ブロックの上に自転車が置かれていることを市に訴えているが、なかなか周知されていない。
- ・親なき後のことを考えるにあたり、成年後見だけではなく、公的施設以外にも活用できる機関と連携することを模索してもよいのではないか。

【委員グループ1班】

- ・アンケートについて、身体障がいの中でも視覚障がいは何%、聴覚障がいは何%という風に、障がい種別ごとに集計した結果が分かればなおよい。障がい種別ごとに割合を決めてアンケートを実施しているが、実際にどのくらいの意見が反映されているのか分かりやすくなるはず。
- ・希望する暮らしで、家族と同居が1番という意見があったり、一人暮らしが1番という意見があったりするが、親なき後の状況を考えた時に、同じ質問でも温度差が出てしまう。
- ・何のためのアンケートで、アンケート結果を基に市で何をするのか。
- ・南海トラフ地震が30年以内に起きると言われている中で、事業所側での備蓄であったり、避難場所の確保であったり、BCP(事業継続計画)でやっているが、電源の供給が不安要素としてある。
- ・市で研修など専門性を高めるための事業を実施しているが、見合った研修が実施され、事業所が参加できる状況なのか。制度的な部分と実務的な部分がかけ離れていなければよい。

【委員グループ2班】

- ・車いすで移動しづらいという問題をどこに相談すればよいか。
- ・点字ブロックが整備されるのはよいが、逆にバリアになってしまうこともある。
- ・今年度、人材確保で魅力発信に力を入れていたが、しっかりと評価をして継続してほしい。

【委員グループ1班】

- ・アンケートを実施する意図を再確認。予算を確保するためにも活用される。

【委員グループ4班】

- ・手話バッジを職員だけではなく市民にも配布し、みんなに手話を覚えてもらいたい。
- ・手話を勉強したいがお金がかかるという意見があるが、事業所へ行政から補助金が交付される場合もあるので、そういう情報を周知していきたい。
- ・4月から自転車のルールが厳しくなるので、自転車が走りやすい道路作りも考えていきたい。

【委員グループ3班】

- ・複雑化、複合化した課題への対応。
- ・現場でも地域の人から悩ましい課題が出てきており、重層的に支援するケースが増えている。次期計画には、地域の課題についても盛り込んでほしい。
- ・地域から孤立している人がたくさんいる。障がいを持っている人は赤ちゃんから高齢者までライフステージを通じてきめ細やかな連携が必要。
- ・計画冊子は、地域の人に分かりやすく、イメージしやすい言葉で書いてもらいたい。

【市職員グループ2班】

- ・今までの計画冊子は関係者にしか読めないものであった。
- ・誰が読んでも面白い計画。ベストセラーになるような、関係者以外も読んでくれるような計画になればよい。
- ・障がいがある人もない人も我がことになるように、「あなたの安心に繋がる」ような計画に。
- ・障がいのことを考えるきっかけになるように。
- ・キャラクターを考えたり、オシャレな表紙にするなどの工夫をして、みんなに手に取ってもらえるような計画冊子にしたい。

【市職員グループ1班】

- ・伴走支援イコール同じ人が伴走し続けるというイメージを持ってしまいが、きちんと引き継ぎができるようなイメージで、伴走支援という言葉を使えるようにする。

事務局から連絡事項

【事務局】

来年度の第1回については、令和8年6月頃に開催予定。詳細が決まり次第お知らせする。

福祉部長の挨拶

(以上)